月桃（げっとう）通信 No33　2022 年 11 月 27 日

軍事大国として変りゆく日本

石原つや子

イラスト：大城旋律（孫）

〇光からあらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。―――実を結ばない暗闇の業に加わらないでむしろそれを明るみに出しなさい。
（新約聖書　エフェソ書５：9～11）
〇日本国の内面的空洞化は今やその極点に達したかと思われる。危機的様相を呈しています。（1996 年　高橋三郎）
〇平和は対話から（対話プロジェクト）対話的精神を教育の中で育てることが重要である（つや子）
〇貧しい人から最後のパンの一切れを奪ってはならない。（格言）

☆台湾有事と米中対立、ウクライナ戦争、北朝鮮のミサイル発射などを受けて、日本は加速度的に軍事力拡大への道をまっしぐらに進んでいます。米軍基地に取り囲まれている私達は戦争への不安を肌身に感じています。戦後 77 年の今、平和ボケと言われている国民に目を覚ましてこの現実と向き合ってほしいと強く願います。戦後日本は憲法９条を守る平和国家として世界から信頼され、経済発展を遂げてきました。然し今や憲法９条は地に落ち、米国に追従して前線に立って戦争する国へと変わり果ててしまいました。米国によって中国脅威論、台湾有事を煽られて、島嶼防衛の列島線上にミサイル基地が造られ、最西端の与那国島は島全体が台湾有事の戦場と見なされ、軍事訓練が行われています。米軍と自衛隊との戦争を想定した実践的訓練は強化され、自衛隊の軍事車輌が連なって公道を公然と走るまでになりました。私達は、もう辺野古反対にのみ止まっていることは出来なくなって、日米共同軍事訓練に反対の座り込み抗議行動を港湾の入口やいろいろの場所で行っています。私達は二度と沖縄を戦場にしないために出来ることは何でもしようと決意して「ノーモア沖縄戦、命どぅ宝の会」を発足させ連帯の輪を広げています。また「台湾有事」を起こさせない、沖縄対話プロジェクトの発足集会も開催されました。ここでは「台湾有事」「沖縄有事」を起こさせないという「あらゆる政治的な立場を超えた」共通意識を醸成し、広げていくことを目標として活動を始めています。保守も革新も老いも若きも国籍も関係ない異なる立場の人達が対話によって気付き、平和への共通の認識を高めていくのです。日本の軍事費は 23 年度は 6,5 兆円、27 年度迄に 10,8 兆円、ＧＤＰの 2%を達成し世界第３位の軍事大国へ最悪の道を驀進、拡大する軍事費は国民の税金からと岸田内閣は言っています。防衛省は全くのデタラメ会計、米国の言いなりに米軍が不要となった戦闘機やオスプレイなど爆買いして大赤字だと報じられています。軍事費拡大は必ず国民の貧困と比例していきます。国民を犠牲にして軍事費を拡大することで増々国は貧しくなります。安全保障は平和とは逆行するものです。敵基地攻撃の戦力迄も備えようとしているこの国の軍事力拡大は戦争の危機を招くだけです。日本は一体どこに行くのでしょうか。私たちは中国や北朝鮮に友達をつくり、交流し、理解し合い互に相手の国を好きになることが平和をつくる最善の方法だと思います。草の根での交流を大切に育てていきたいと心から願います。辺野古の海も丘も変わり果てて痛々しい姿です。政府は県の裁判を却下し門前払い、全く沖縄の民意は無視しています。神様は生きておられ、現場に立ち声を上げ続ける私達一人一人を顧みて下さり**「あなたこそは地の塩であり、世の光です。わたしはいつもあなたがたと共にいます」**と語りかけて下さるのです。

さとうきび畑は小鳥たちのゆんたく広場
ピチクリピチクリピイピイにぎやかで楽しそう!!私達も小鳥たちに敗けずに世界中の人たちと沢山沢山ゆんたくして楽しもう。そしたら戦争はもうお終い！戦闘機もミサイルも要らない！ざわわざわわとさとうきび畑を渡る風に乗って、あの日の戦の魂たちの声が、あの日の父、母、兄弟たちの声が聞こえてくる、戦争は絶対ダメだよー命どぅ宝。（詩：つや子）

☆抗議行動の現場から

辺野古埋め立て土砂搬出の塩川港では年２回、塩川デイと定めて朝７時～夕５時迄の集中行動をしています。塩川デイの日は 300 人余の人々が集り、土砂を積んだダンプの前を牛歩で横断して「基地 NO」の抗議をしています。ある方は「福祉の基盤は平和だ、自然や人の心までも破壊してしまう基地を子や孫に残したくない」と語り、ある方は「以前はのどかな場所だったのに、塩川港が基地建設のために使われてしまって様変わりしてしまった」と嘆き悲しまれました。ダンプカーは１日 500～700 台ほど通過しますが、この日は 200 台に止めることが出来ました。毎日 300 人もの人達が集れば土砂搬出を止めることも可能でしょう。然し、普段集まる人は 10 人～20 人位に限られます。長く続く厳しい戦いですが、塩川港に立つ人は決して絶えることはありません。安和港では入口の前は国道で、レンタカーや沢山の車が走っています。狭い所なのに右、左、直進と三方向から同時にダンプが入って来るのでとても危険です。ダンプの大きなタイヤと自分との距離は 1,5mほど、もしここで転んだら命はないでしょう。こうして無事なのは神様に守られているからだといつも思って神に感謝しています。

☆歌いつつ抗議する私

「闇は光に勝てない、うそは真に勝てない　真実は沈まない、私たち諦めない」ユン・ミンソク作詞作曲の真実は沈まない（闇は光に勝つことができない）は 2014 年４月 16 日に起きた「セウォル号惨事」の追悼曲です。この歌を歌うと何故か不思議な一体感が生れ、確信的な力と希望が溢れてきます。闇とその力とを見据えながら戦っている者の決して諦めない強い意志が伝わってきて、私たちを励ましてくれるのです。このような歌詞は韓国だから生れたのであって、日本では決して生れないだろうと思います。何が違うのでしょうか。キリスト教の信仰と聖書のメッセージが底流にあるからとは思いますが、長い日本による侵略の歴史、その苦難の中で培われた不屈の精神と、闇の力に立ち向う勇士の姿が見えてきます。私たちの国日本は、他国を侵略し、言語文化をも奪い、強制連行して多くの命を死に至らしめました。この侵略者の罪を悔い改め真心から謝罪する他はないにもかかわらず、わが日本人は謝罪も出来ない情けない民族です。この大きな違いの中から日本人の精神構造が見えてきます。あいまい、すり抜け、誤魔化し、嘘も方便、その場限り、くさいものにはフタ、自己保身、過ぎたことは都合よく忘れる、長いものにはまかれる、お上には逆らわない、周囲に合わせる、自己のためには他を利用する、真実を語り行動する者を排除する、エリート街道をまっしぐらに出世した成功者なる人々、心が育っていないので人の痛みも分らなく、国民とかけ離れた政治家たちの姿の中にはっきり見えるものがあります。それこそは私の恩師、高橋三郎先生がすでに 1996 年に指摘した内面の空洞化が極点に達した危機的状況そのものだと思います。このような精神構造はどこからくるのでしょうか、と考える時私は天皇制に行き着くのです。まさに日本人は天皇制の下にすべてが肯定され、闇も光もない、真理と戦うこともない、決して損はしない、自己中心の世界へとマインドコントロー

ルされているのではないでしょうか。私は天皇制に反対します。皇室の方々の人権を回復して、自由になって頂きたいと願います。

☆統一協会問題と私たちの課題

国会では被害者救済新法が成立されようとしていますが、オウム真理教と同じように解散命令にまで至ることを願います。政治家との癒着を断ち切る法律の成立を願いますが、この種の問題は政治や法律では完全に断ち切ることが出来ません。オウム真理教も名前を変えて生き残り、今も活動を続け、多くの若者達が取り込まれています。根絶は不可能に思います。大切なことは私たち個々人がいかにしてだまされない人間になれるのかということです。日本人は 2018 年の調査で「宗教を信じていない」は 74%でした。日本人の拝む対象は八百万（やおよろず）の神々であり、無宗教の人が大半です。何故日本人はメシアの再臨、合同結婚、先祖は地獄で苦しんでいるから献金を積まなければ救われないなどの教えを受け入れてしまうのでしょうか。無宗教の日本人は宗教に対する予備知識もなく全くの無防備です。学校でさえ宗教についての一般的知識さえ学ぶ機会が殆どありません。大切なことは自ら考える力を身につけ、偽りの宗教や、商法などにだまされない人間になることしかありません。そのためには一人で考えて決めるのではなく、家族や友人など第三者に必ず相談することです。そのような関係を常に持っていることが大切です。人は誰しも弱く危く、自身のことは分らないことが多くあります。決して大丈夫ではないのです。マインドコントロールに陥って家族を破壊してしまった人達を解き放つために牧師さん、弁護士さんが闘っておられます。私たちも力を合せ若者達が偽宗教のマインドコントロールに陥って一生を不幸にしないために、見守り支援していくことが大切だと思います。真の宗教（信仰）は、**神は愛である。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。心の貧しい人、悲しむ人、柔和な人、義に飢え渇く人、憐れみ深い人、心の清い人、平和を実現する人、義のために迫害される人は幸いである**と語りかけて下さる神と出会うことです。聖書の生きた言葉が、偽りの統一協会信仰に捕われている人達を救い出してくれる事を願い祈りたいと思います。

☆平和は心を育てる教育から

戦後日本は高度経済成長の中で大切なものを見失い捨ててきました。それは心を育てる全人格的な教育です。目に見えない世界の大切な価値を捨て、目に見えるものだけを追い求め、ペーパーテストの優等生が勝ち組となり、政治・社会のリーダーとなりました。彼等は心が育っていないため私達国民の痛みが分らない、民衆とかけ離れた存在としてのさまざまな問題を生み出し、この国を混迷の深みへと導いています。教育現場は国の価値観に振り回され学力テスト結果によって評価し、個性、多様性の豊かさを育てず多くの不登校児を生み出しています。この現実に不登校児の特別学校を造ろうなどと、とんでもない意見までも飛び出す現実に深刻な教育界の危機を感じます。自ら考える力を育て、人間としての自由な心のあり方を育てなくては、だまされマインドコントロールに陥る若者が絶えることはないでしょう。主体性を尊重し、生きる力を育て、自ら考える力をつける教育へと変えていかなくてはなりません。心の空洞化は軍事力拡大、戦争へとつながる原因をつくります。自らの意志と決断により、自分自身を生きる若者が平和を作り出していくことが出来るのだと私は思います。イラストにある<u>ハート</u>こそが命なのです。

☆非暴力を生きる人　いがみあってはいけない、わからない人を不幸と思いわかるように導いていく、そ

うして平和を作っていく　　（阿波根昌鴻）
人気ユーチューバーのひろゆき氏の発言が沖縄の人々を傷つけています。座り込みは０日、看板が汚い、沖縄の人は文法通りに喋れない、などなど。ネット大衆に沖縄差別を助長させ、真実を曲げて拡大させています。ひろゆき氏現象は人格の基礎を欠いた「知」の根無し草現象であると言われている通りです。座り込み日数の看板を作って下さる金城武政さんは辺野古在住でいつもテントの環境を整えて裏方として私たちの活動を支えて下さっている方です。金城さんはひろゆき氏に「看板が汚い」と言われて新しい看板を作られました。馬鹿にされ、けなされても黙って受けて立ち行動する金城さんは、中学生の時米兵に母親を殺害された方です。深い悲しみを背負ったその心は、非暴力の平和を誰よりも強く望んでいるからこそ自らが平和を作る人になっておられるのです。平和は悲しみを知っている心から生れるのだと金城さんの後姿を見て思いました。

☆うるま島ぐるみの活動
〇各地域の公民館にて「ミサイル要塞化の危機・写真展」を開催して地域住民への喚起のために続行し、住民との交流、対話の場を作っています。「ミサイル配備から命を守るうるま市民の会」が来る 28 日に結成大会を持ちます。
〇辺野古、安和、塩川と週２日チャーターバスにて抗議行動続行中。
〇女性を中心に〝てぃーあんだ便り〟を発行して、自発的な自己表現の場を豊かに作っています。楽しく共に成長し、平和を作る活動です。
次々と休む間なく新しい課題と取り組み、多忙な日々をつながる力で共に頑張っています。
〇楽しみのひと時
抗議行動の帰途、高速のサービスエリアでの楽しみのひと時があります。用意してきたおやつを頂き、リーダーの宮城さんが入れてきて下さった温かい夫婦コーヒーを味わい、バナナ農家の安和さんが毎回下さるバナナを頂き、ゆんたくします。みんな友達、ステキな仲間たちです。みんなと一緒だから厳しい抗議行動も楽しく頑張れるのです。人は人と共にあってこそ人として生かされているのですね。私もおやつ係のささやかな一役を楽しんでいます。サービスエリアからは金武湾が一望、うるまの島々が見えます。青い海、緑の島々、私達の沖縄を私達は愛しているのです。

<u>辺野古基金のために</u>
つながる力うつぐみの会（大野悦子）
＊布マスク＊大・.小の手提げ袋＊ティッシュケースカバー＊鍋つかみ＊コースター＊マイバック
あみの会（山田博子）
＊各種帽子＊ヘアーバンド＊ヘアゴムシュシュ
どうぞ御注文下さい。　　※リサイクル着物、リサイクル糸求めています。　　両窓口：石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115　うるま市石川伊波　1180-5　石原艶子
携帯：090-4471-1942　　Email：yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp
〈振込先〉ゆうちょ銀行　記号：12260　番号：12650271　イシハラツヤコ